

5. 岩永 利彦 (東京)



〔受験〕 1回〔年齢〕 34歳〔職業〕 会社員〔最終学歴〕 東工大・院：応用物理修士
〔選択科目〕 ①制御工学，②測量学，③原子核工学
〔受講講座〕 基礎講座，基礎答練，論文答練，多枝答練

1. 受験の動機

直接的な動機は98年6月に現在の職場である知財部に異動できたことによる。元々、特許の仕事がやりたかったものの、バブル期ということもあり勤めている会社に入社して8年ほど開発の仕事をしていた。その間弁理士受験には予備校があるということも知らず、異動して初めてこの受験界と関わりを持つことになったと言える。

2. 勉強の仕方

他の受験者によって多くのことが開示されていると思うので、細かいことは述べないつもりであるが、仕事をしながら1回受験で合格できた経験は多くの方に参考になることもあると思う。従って、時系列的にその時何をどう勉強していたかを述べたい。

(0) 基礎講座の申し込みまで～9.8.6

社内で異動後すぐに異動者のための研修が始まり、そこで現在も色々アドバイスを頂いている方と知己になることができた。弁理士試験は難しい試験と知っていたため、踏ん切りがつかなかったが、その知己になっていただいた方の中から、早ければ早い方がよく、しかも今は申し込むには絶好の機会だとアドバイスされた。その気になり、基礎講座を申し込むに至った。おそらくこの異動の時期が1月でも遅れていたなら、今年合格することはなかったと思う。そしてこの時期は勉強ではなくその準備で忙しかった。例えば家に勉強机もなかったので、7月の講座開始に間に合わせるべく家具屋に走った。また後戻りできないように、基本書はすぐに使わないバリ条約講話等まで、ほぼフルセットで揃えた。更に、会う人会う人に弁理士の勉強を開始するという話をして、途中で勉強を投げ出せない様に仕向けた。こっそりやって受かれば格好いいが、この試験はそんな甘いものではないと思う。

(1) 基礎講座の始まり～9.8.7-8

基礎講座は最もためになった講座であった。半田先生の講義はわかりやすく、

毎回楽しいものであった。更にこの時期は異動者の社内研修が都心で行われ、通うにも不便はなかった。勉強は基礎講座の予習復習中心で、基礎講座前後の日に当該範囲の吉藤の通読、レジメの通読を条文と照らしあわせながら行った。また、それ以外の日は吉藤を条文を見ながら初めから読んでいた。これは半田先生のアドバイスで、毎日3時間読めば吉藤は1ヶ月で読み終えるということからである。しかし、読み終えるのに2ヶ月かかってしまった。また、初級ゼミに入れなかったため、基礎講座で行われる小テストの成績上位者に認められる半田ゼミ入ゼミ資格を得るべく、小テストは死にもの狂いで臨んだ。具体的には、見て→覚え→書き、ということを試験範囲のレジメの各定義趣旨で5回程繰り返した(以下、これを書き書き殺法という)。初めは丸暗記で、一字一句間違えないように覚えようとしたため、非常に苦労した。しかし、この非効率的な作業で趣旨の構造がわかってきたのであるから不思議である。そのため、この最初の小テストの成績上位者に名前が載った時は、最終合格以上に嬉しかったかもしれない。これで少しはやれるかもという自信がでてきたからである。

また、この時、法令集は53版しか出ていなかったため、改正法は対照表を見ながら勉強していた。しかし、効率が悪いので53版に改正法を全て書き込んだ。もちろん青本にもである。こうすることによって、どこがどう変わったかすぐにわかる。その作業は非効率的だが、この方法は非常に勉強になった。僕は短期合格の最たる者だと自分でも思うが、やっていたことはどれも非効率なものである。けれども、すごく良かったと思う。急がば回れである。

この時期は平日3時間×5で15時間、土日は合わせて10時間と、週で25時間ぐらいの勉強時間だった。今思うと少ないが、まったく法律の勉強をしたことのない人間にしては、最初からコンスタントにやれたのではないかと思う。ただ、勉強癖がつかず、この頃は音楽を聴きながら勉強していた。

(2) 基礎答練の始まり～9.8、9.9～1.1
9月に入ると社内の研修が終わり、勤務地に戻って実務に入った。更に迷いに迷ったあげく基礎答練にも参加することとしたので、週2回都心に通わねばならなくなった。仕事では日々新しいことを覚えねばならず、帰っても勉強しなくてはならず、ペースもつかめず、ストレスから39度以上の発熱で勉強も会社も休むことが度々あり、更に原因不明のおできが頭にできたりと最も苦しい時期であった。勉強は(1)にプラスして、基礎答練の予習復習も加わった。基礎答練では必ず3通のレジメが事前に配布される。従って例によって書き書き殺法が炸裂することになった。具体的には、条文を参照し理解しながらレジメを通読→レジメを見ずに問題だけで答案構成→書けなかった所をチェック→さっき書いた答案構成を見ながらレジメ全文の再現→何も見ずにレジメの再現である。これを一通りや

るのには3時間は優にかかる。レジメ3通だと平日3日分である。基礎講座の予習復習もあり、残業する日もあったため結局書き書き殺法の最終工程までたどり着くレジメは毎週1枚あるかないかであった。ただ山を張ってそこだけ勉強するということは決してやらなかった。それでは本末転倒だからである。基礎答練の成績は1週おきに名前が載るか載らないかぐらいのものであったが、載った時は励みになった。また答練後の菊池先生の講義も、ポイントを押えておりどれ程助かったかわからない。この時期かなり無理をしていたのであるが、講座の履修で迷ったのはこの基礎答練だけだったので、運命を変えた講座と言っただろう。基礎講座は相変わらず楽しく受けさせていただいた。ただ特→実→意匠→商標と科目が変わる度に次の科目が難しかったらどうしようと脅えていた。逆に言えばそれ程理解していたのである。勿論小テストも書き書き殺法で本気で臨んでいた。この小テストを侮ると大変後悔すると思う。今現在受けている人にはそういうことをアドバイスしたい。また半田先生が講座の中で基礎講座の特許法が終わったあたりで選択科目も始めた方がいいという話をされたことがある。従って、10月から測量学の勉強を始めた。まず「測量(上・下) 佐島秀夫・新井春男 著 コロナ社」を初めから通読していった。

この時期の勉強時間は平日3時間×5で15時間、土日は合わせて15時間と、週で30時間ぐらいであった。さすがに講座も増え選択科目も勉強し始めたので土日の時間を増やしたのである。尚、選択科目は11月から制御工学も始めた。「詳解自動制御例題演習 山口勝也著 コロナ社」をやった。勉強するのは毎週日曜の夜、測量と制御で2時間ずつであった。このペースは多枝前の99年3月まで変わらなかった。さすがにこれ以上は増やせないというのが実状であったが。

(3) 半田ゼミの始まり～9.8、1.2
12月に入って念願の半田ゼミに入ることができた。毎週土曜の午後ということもあって、そんなに負担にはならず、基礎講座の補講という感もあり楽しく過ごさせていただいた。また、ゼミの教科書ということで初めてサブノートを買った。ただし、これを上級者が持っている差し替え式のレジメにすることは結局なかった。どうも僕はコピーでは勉強する気が起きず、コピーしたり作ったりする時間をもったいないと考えたため、2次試験が終わるまでサブノートのみしか持って来なかった。でも受かったので、これで十分だったのだろう。勉強は、基礎講座の予習復習の基本書レジメ読み、基礎答練の予習の書き書き殺法、そして半田ゼミの予習復習と日曜夜の選択科目という所であった。半田ゼミの開始のころからまた、基礎講座の小テスト、基礎答練も山を張らず全力投球だったことはいままでもない。あと、正月休みは年末に改正本が発売されたので、そればかり読んでいた。こ

その時に2回も読めたので後々楽であった。この時も条文は常に参照していた。

(4) 論文答練会～99. 1-3

年明けの答練会の参加は、迷うことはなかった。なぜなら98年内の勉強により理解度がかなり上がっているということを実感できたためと、半田先生の基礎講座でのアドバイスに従ったためである。そのため代々木のゼミの上級者と差で勝負したいため、かなり早く申し込んで、そのゼミ生達と同じ教室で受けることにした。

結果についてだが、長丁場のため良い時期もあり悪い時期もあった。最終の総合成績は名前が載ってなかったので正確にはわからないが400番弱ぐらいであった。当然こんな成績ではいくら合格者が増大している最近でも最終合格できる可能性はかなり低かったであろう。しかし、何故かわからないが、この頃から合格できそうな気がしてきたのだった。おそらく、①答練会の1回目にまぐれで1問だけ名前が載ったこと(答練会で名前が載ったのはこれだけ)で、運が良ければ1年目でも点がとれるということがわかったこと、②少しずつやっていた選択科目の2科目とも上記の入門書を2月中に終わらせることができたこと、③基礎講座も2月に終わり、もう初心者ではないと思えたこと等がその理由になるだろう。

勉強の仕方としては、基礎講座が終わるまでは、基礎講座の予習復習の基本書籍レジメ読み、半田ゼミの予習復習と日曜夜の選択科目という所では変らなかつた。変化があったのは答練会の予習復習だが、さすがに基礎答練と異なり範囲が膨大すぎて書き書き殺法をとることができず、ひたすらレジメの理解に励んだ。僕の勉強法は非効率であるが、それは理解を深めるためのもので暗記のためのものという意味あいは薄いと思う。従って、レジメを回すという一般に言われていることがまったく理解できないままであった。いまだにその意味はわからない、もしかするとレジメを回していたのかもしれないが。勉強時間は前述の通り週30時間は変らなかつた。また測量はこの頃から「測量士補受験100講中川徳郎・土橋忠則「山海堂」」をやり始めた。

(5) 多枝試験まで～99. 4-5

4月に入ると本試験申し込みの季節となる。僕は早い番号をとるため、会社を半休して特許庁に直接願書を提出した。なぜなら、合格発表は番号順のため、早い番号の方が早く結果がわかるだろうというものであった。

この時期は4月の半ばまで論文答練会があるのだが、4月に入ってからは論文必須の勉強は一切しなかつた。逆に3月中から多枝答練が始まっても3月中は一切多枝の勉強はしなかつた。すなわち4月から完全に切替えたのである。また、それまで53版→54版の法令集を使っていたのだが、ここでPATECHの4法対照法文

集に切替えた。多枝の勉強法は、よく言われている通りのものである。まず、範囲別の過去問集を1回通してやった。もちろん間違えた枝は4法にチェックを入れ、正の字を書き、何回その条文を見たかをわかるようにした。また、青本は、会社の行き帰りに読むようにした。これでGW突入前に、範囲別を1巡し、青本は特許法まで読み終えることができた。更にGW中に範囲別の2巡目を終え、模試でも30点までとることができた。多枝答練も参加していたが、その時は最高でも20点くらいしかなかったから、大した進歩である。この頃は、うまくやれば、もしかすると多枝合格できるかもしれないと思うようになってきた。そして、GW後は範囲別2巡目でチェックした数の多い条文を中心に第1回目の条文の読み込みを行った。このあと模試を再び受けたのだが、35点で自信は確信へと変わっていった。その後3巡目の範囲別、多枝答練の問題、模試の問題等でほぼ過去問レベルつぶしを終えた。また、会社の行き帰り読んでいた青本も商標まで読み終えることができた。この時点で多枝前1週間であった。この多枝1週間前から、会社を休むことができ、全てのエネルギーを勉強に集中させた。やったのは、午前中条約の青本代わりにパリ条約講話を読み、午後の思多枝本番の時間に合わせて年度別の過去問をやり、夜は間違えた点のチェックで4法への書き込みと更なる過去問つぶしであった。そして本番2日前から条文の最終読み込みを行い、当日を迎えた。

勉強時間は平日1時間増やして週で35時間ぐらいであろうか。選択科目は4月の半ばぐらいで、さすがにほっておいた。また1週間とれた休みの際は、1日10時間少しいった所である。

(6) 多枝試験～99. 5. 30

本番は会場には早目に行き、最終的に書き込んだ4法をチェックしていた。正の字の多い所と193条あたりが最終チェック項目であった。試験は予想より過去問が多く、模試より簡単だなあと感じた。また、PCTの規則に関してはまったく勉強していなかったので、その手のマニア問題も今年は少なからず、僕には幸運だった。終了後は開放感に溢れ、ゼミの人達と2ヶ月ぶりに酒を飲んで飲んだのだが、とてもおいしかった。更に千鳥足で帰って代々木塾に電話し、この時書き写した答えを合わせてみるとボーダー点より上でびっくりした。この時は本当に嬉しかった。翌朝各予備校に確認してみると、やはりボーダーより点が良く合格を確信した。この年ボーダー39点で、自己採点では40点だった。

(7) 2次試験まで～99. 6-7
しかしながら、ボーダーより1点程度上では不安で必須科目に身が入らなかつた。そこで、多枝の合格発表までは、やっていなかった選択科目の原子核をやることにした。2週間程度はこの原子核のみ毎日やっていた。やったのは某Pラボ

のレジメと「現代原子力工学」大山彰著「オーム社」であった。あと日本原子力振興財団のパンフレットと知恵蔵も参照した。

そして6月の後半合格発表があり、本当に多岐に合格することができ、必須も本格的に勉強し直すこととした。この時期最初はレジメを読むだけだったが、どうにも憶えた感じがしなかった。ゼミの先生のもう死にもの狂いでやるしかないというアドバイスのため、いちかばちか、また書き書き殺法が炸裂することになった。具体的には、条文を参照し理解しながらレジメを通読→レジメを見ずに問題だけで答案構成→書けなかった所をチェック、のここまでであった。これを残り1ヶ月少してサブノート3冊のほぼ全てのレジメでやった。時間はぎりぎり間に合ったという感じだった。また、選択科目も途中でほった測量学も100講を何とか最後までやり、制御工学も某Pラボの通信講座に急遽申し込み、最後の詰めを行った。その後各選択科目は過去問を行ったのだが、どうにも測量学だけは2-3割しか解けず、一番長く勉強した選択科目にも関わらず本当に失敗したと思った。4月の本試験の申し込み時に選択科目は既に決めており途中の変更はできないのだが、本当に不出来に泣けてきた。制御や原子核は既にある程度理解できており、必須は相対的なもののため、今年落ちたら測量学のせいだろうと思っていた。しかし、これが思いもよらぬ結果になるとは自分でも予想していなかったのだが。

また、この時期直前書き込みやゼミの書き込みにも参加させていただいた。代々木の直前書き込みは友人の結婚式と重なったため途中退場を余儀なくされたが、結局最終成績は400番弱ぐらいであったろう。年初の答練会からあまり進歩しておらず、少々落ち込んだが自分は本番に強いと言い聞かせた。

この時期の勉強時間は、平日さらに1時間増やして、週で40時間であった。

(8) 2次試験前1週間-2次試験

試験前1週間は、また会社を1週間休ませてもらった。(しかしながら、やることは殆ど同じで、ただ1日の勉強時間が長くなっただけという有り様だった。とさ、というのは、時間がなくて多岐前のように特別な組み立てができず、書き書き殺法、泣く泣く測量、そこそこ余裕で最終確認の制御と原子核という感じだったからである。ただ、勉強する時間は本番の時間に合わせて行い、例えば意匠や制御は朝1に勉強するという風になるべく本番を意識して勉強するようにしていた。それでもまったく時間が足りなかった。書き書き殺法も1巡ちょっとしかできず、確かなレジメは1つも無いという有り様だった。

本番は、近くに宿を借りてそこから会場に通った。やはり集中できるのでこれは良かったと思う。しかし、どうにも会場が暑かった。昨年の2次を受けた方からクーラーが効きすぎて寒かったという話を聞いて、少し厚着して行ったのだが、

とんでもなかった。ただ、僕は夏生まれで運動部出身のため、相対的には有利な環境だったかもしれない。この1週間前の勉強時間は、1日10時間程度であった。

(9) 2次試験
2日目の特許法1問目からたくさん書かせる問題で、時間がなくなった。僕は2問をきっちり1時間ずつに分けて解答するタイプなので、ここでかなりパニックになった。さらに2問目がビジネスモデル特許の問題で、もう頭が真っ白だった。両方ともわかる所だけを正確に書いたという感じだろうか。また、実用新案法は2問ともそこそこ書けたのではなからうか。この日あの特許法の2問目がなければと思ったが、答練会ではよくやったことなのであまり気に留めなかった。2日目の意匠法は僕のような改正法から学んだ人間にとっては、非常に有利な問題だったかもしれない。また、商標法の1問目もやはり有利だったが、2問目で躓いた。事例問題で時間が余ったため考え直したのだが、専用権と禁止権の誤りに気づき、書き直したのがいけなかった。更に時間切れ寸前でもう一度見直したら、初めの方が正しいことに気づいたので、急いで書き直した。また、条約は1問目が基本問題で良かったが、2問目が多岐の様な問題だった。この時初めて見た条文もあったぐらいである。この条約が終わった時点でかなり疲れた。次の日の原子核は昼からなので、少し休めた。

3日目は原子核、4日目は制御、測量とどれも思いの外よくできた。今までの過去の問より本番はうまく行った。特に一番できないと思っていた測量が最も点が高いのではと思えた程であった。点は、原子核80点、制御が75点、測量85点ぐらいだろうか。どれも傾向は前年とほぼ同じで、得点しやすいのではないかと
思う。多分来年も変わらないと考える。

(10) その後

2次試験後、代々木の木曜中級Aゼミに受かることができた。つまり、それだけの実力が1年で付いたのだろう。また、口述についてだが、2次に受からなければ気にも留めないと思うので、多くは書かないが、なめるとんでもない目にあうだろう。を中心勉強しました。以下、具体的に説明します。

2次合格、最終合格は嬉しいというより、びっくりした。本当に1年少しの勉強で合格できたからである。

(11) 終わりに

先人の合格体験記を読むと、何故初めから合格した年と同じペースで勉強しなかったのだろうかと思うことがあった。色んな理由があると思うが、合格は早ければ早い程良いと思う。また、失敗はそれ程恐いものではないと思う。最も恐れなければいけないのは、諦めることだと思う。そのため、僕は初年度から飛ばすだけ飛ばして、良い結果を得ることができた。取りあえず言えることは、諦めな

ければ何とかなるということだろうか。最後にあったが、色々お世話になった方々、会社の師匠の原田さん、道を示してくれた酒井さん、お世話になるばかりだった長井さん、吉田君、そしていっばい休んだ僕を支えてくれた会社の同僚のみなさん、いつも楽しく勉強できた半田ゼミのメンバーの方々、田口先生、長谷川先生、そしてわがままを聞いてくれた塾長と結局最初から最後までお世話になった半田先生には目一杯の感謝を。加えて、両親、結局また助けでもらった陸上競技と猪木イズムには最大限の感謝をしたいと思う。

この1年非常に充実していたので、勉強しなくていいのは多少寂しいのだが、人は歩みを止めた時、戦いを忘れた時に年老いてゆくものなので、また次の戦い

の扉を探してみるつもりである。以上

...